

私立短大教務担当者研修会

学生のためのカリキュラムマップ

—理念から科目ナンバリングまでの俯瞰図から見えるもの—

追手門学院大学 基盤教育機構教授
学長補佐(IR、FD支援)・アサーティブ研究センター長

池田 輝政

2015年10月28日
於:オークラ 新潟

2 カリキュラムのMapづくり:基本ルール

(1) 目的地が明確である

(2) 目的地に至る道筋が学生に理解できる



二つの要件を満たさないものは、Mapとは呼ばないことにする

3 池田式カリキュラムMappingの提案

大学・学校づくり第6号(2015)

学位授与方針から設計するカリキュラム・マッピングの提案と実践

池田 輝政 野口 眞弓 佐々木 幾美

現在のカリキュラム改革では、学位授与方針と開設科目が遊離せず、かつ教養と専門の科目を統合的に表現するカリキュラム・マップを学生に示すことが求められている。本論文は、学位授与方針から逆向き設計する新しいカリキュラム・マッピング法を提案し、それを看護系大学の教員研修において試みた。この結果を総合的に判断すると、短時間で初めての体験にもかかわらず、新マッピング方法に対する教員の適応力は高かったこと、そしてカリキュラム改善への認識力も高まったこと、の二点において筆者らは有用性とともに有効性を確認した。

4 池田式カリキュラムMapのわかりやすい例

当日拡大図で説明します

特性範囲	1 使命感・責任感・教育の愛護	2 社会性・対人関係能力	3 子どもと関わり・学級経営	4 教科内容理解力	5 学びの過程の統合力
課程審議 認定方針	教育に対する使命感、深い危機感と規範意識、そして教育の愛護をもち、子どもを指導することができる	基本的な社会的態度を身につけ、規範の一環として行動し、保護者・地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる	子どもの発達や個性を認識して適切な指導を行い、子どもと信頼関係を築き、規範ある学級経営を行うことができる	教科等の知識や技能に関する学習指導の基本的事項を身につけ、授業を行うための基本的教養力を養育することができる	教養の学びのプロセスで身につけた力を有機的に統合し、教養志向を円滑に始めるための実践的な統合力を身につける
↑ 時 間 的 な 順 次 性 ↓	四年次履修			教科科目 (指導法) 道徳科教育法Ⅰ 15 道徳科教育法Ⅱ 59 社会科教育法Ⅰ 41 社会科教育法Ⅱ 59 社会科教育法Ⅲ 42 地理科教育法Ⅰ 57 地理科教育法Ⅱ 41 公民科教育法Ⅰ 54 公民科教育法Ⅱ 5 国語科教育法Ⅰ 17 国語科教育法Ⅱ 14 国語科教育法Ⅲ 16 国語科教育法Ⅳ (49) 国語科教育法Ⅴ 19 国語科教育法Ⅵ 18 国語科教育法Ⅶ 9 国語科教育法Ⅷ 7 国語科教育法Ⅷ 14 国語科教育法Ⅸ 41 国語科教育法Ⅹ 62 特別支援教育科目 障害児教育法Ⅰ 障害児教育法Ⅱ	教科科目 (教養実践演習) 教養実践演習 (中級) 教養実践演習 (基礎) 教養実践演習 (発展)
	三年次履修		教科科目 (教職の基礎) 教職論Ⅱ 55 教科科目 (基礎理論) 教育心理学 秋 104 春 105 秋 74 教科科目 (生徒指導・進路指導) 生徒指導論Ⅰ 秋 53 秋 45 春 71 春 78 生徒指導論Ⅱ 春 6 春 28 教科科目 (教育制度) 教育制度 秋 75 秋 59 春 70	教科科目 (指導法) 社会科教育法Ⅲ 58 国語科教育法Ⅲ 30 国語科教育法Ⅳ 2 国語科教育法Ⅴ 3 国語科教育法Ⅵ 14 国語科教育法Ⅶ 15 国語科教育法Ⅷ 25 特別活動 180 道徳の理論と実践 教育方法論 212 教育方法論 244 教科科目 (教育実践) 教育実践論 241 特別支援教育科目 知的障害者の心理 知的障害者の管理・指導 精神障害者の心理・指導 知的障害者教育論 知的障害児指導論 知的障害者教育実践 知的障害者の自立 障害の理論と実践 障害者教育論 障害者教育論Ⅱ 障害者教育論Ⅲ 障害者教育論Ⅳ 障害者教育論Ⅴ 障害者教育論Ⅵ 障害者教育論Ⅶ 障害者教育論Ⅷ 障害者教育論Ⅷ 障害者教育論Ⅸ 障害者教育論Ⅹ	教科科目 (教育実践演習) 教養実践演習 (中級) 教養実践演習 (基礎) 教養実践演習 (発展)
	一年次履修	教科科目 (教職の基礎) 教職論Ⅰ 秋 106 秋 55 春 29 春 101 教科科目 (基礎理論) 教育原理 秋 51 秋 95 春 40 春 112	教科科目 (基礎理論) 教育思想論 12	教科科目 (基礎理論) 教育行政Ⅰ 秋 45 秋 114 春 84 春 58	教科科目 (指導法) 社会科教育法Ⅲ 58 国語科教育法Ⅲ 30 国語科教育法Ⅳ 2 国語科教育法Ⅴ 3 国語科教育法Ⅵ 14 国語科教育法Ⅶ 15 国語科教育法Ⅷ 25 特別活動 180 道徳の理論と実践 教育方法論 212 教育方法論 244 教科科目 (教育実践) 教育実践論 241 特別支援教育科目 知的障害者の心理 知的障害者の管理・指導 精神障害者の心理・指導 知的障害者教育論 知的障害児指導論 知的障害者教育実践 知的障害者の自立 障害の理論と実践 障害者教育論 障害者教育論Ⅱ 障害者教育論Ⅲ 障害者教育論Ⅳ 障害者教育論Ⅴ 障害者教育論Ⅵ 障害者教育論Ⅶ 障害者教育論Ⅷ 障害者教育論Ⅷ 障害者教育論Ⅸ 障害者教育論Ⅹ

5 大学関係者の様々な反応

- 目的地(学修成果)とその道筋にある自分の担当科目が1対1の関係になるのは困る
- 履修年次(学びの順次性)を横軸、目的地を縦軸に配置したほうがわかりやすい
- 目的地に表現する学修成果をどのように成績判定するのか

6 改めて中教審の問題認識を確認する

(中教審資料H24.2,2『体系的なカリキュラムの構築』)

- 似たような科目を何人もの教員が行っている
- 設置審査は教育課程が出発点の考え方に改める
- 学士課程教育に改めたことで大学も社会も混乱している
- カリキュラムの現状は学科以下の単位で決められている
- 教養教育や全学教育は各学科では視野の外になっている
- ディプロマポリシーも行動指針のレベルになっていない
- カリキュラム構造は学部ごとの縦割りから横組みになる。コースナンバリングは一つの方法で、教育の実質化、国際化につながる
- 体系的なカリキュラムを作り出すには、アカデミック、社会的なニーズ、大学の使命などの軸が必要

7 「戦略思考法」のマッピングの先にあるもの

(1) 科目ナンバリングを新次元カリキュラム観を共有する方法とする



(2) 教員はカリキュラムマップを規準にして自らのシラバスを再設計する

(3) 職員はカリキュラムマップにおける学修行動のプロセスを可視化するマネジメントを工夫する

おわりに

カリキュラムをマッピングするということは、どの科目で何の能力が鍛錬されるのかを明確に示すことにより、学生がカリキュラムの全体を鳥瞰しながら、自分が学びのゴールを目指してこれまでどの道を通り、今どの辺りを歩いているのか、これからどういう道を歩いて行ったらいいのかを、常に客観的に把握し判断できるようにすることです。それにはカリキュラムを、学生が自分の主体的な学びに活かせるツールにするために学生の視点から作るという、大きなパラダイムの転換が意識されていなければなりません。

(サロン幹事 熊本学園大学 遠藤隆久 氏)